

アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップに関する一考察

松本 高志

(阿南工業高等専門学校)

1. はじめに

阿南工業高等専門学校(以下、阿南高専という)では、平成21年から主体的な教育改善活動として、ティーチング・ポートフォリオ(以下、TPという)に着目し、平成22年3月に国立高専では初めてTP作成ワークショップを開催した。TPは内省によって、教育業績を整理するのみならず、教員が抱えている教育への情熱を振り返り、その思いを授業改善、さらに教育力向上へ結びつける教員の主体性を重視するものである。阿南高専では、現状のFD活動に満足せず更なる教育力向上のため、TPを導入し教員の自発的かつ主体的FD活動を目指してきた。そして、平成24年3月、初めてアカデミック・ポートフォリオ(以下、APという)作成ワークショップを開催した。これまで阿南高専では5回開催しており、本稿では、これまでのワークショップ開催の実践からわかったのメリット、デメリットについて報告する。

2. アカデミック・ポートフォリオとは

APとは、高等教育機関の教員にとって業務の3本柱と言える教育、研究、サービス活動のバランスとその有効性を自己省察とエビデンスによって明らかにするものである。米国の第1人者であるSeldin氏によると、人事評価にも教育改善にも活用できるとされている。APはTPを部分的に包含することから、近年米国ではAPが広まりつつあるようである。APの概念を図1に示す。教育、研究、サービス活動それぞれのエフォート割合を示す円の大きさは個人差がある。教育活動のエフォートが高い人もいれば、研究活動のエフォートが高い人もいる。また、それぞれの関連性や、相互作用の度合いも個人ごとに大きく異なるものである。教育活動と研究活動の重なり部分が大きかったり、研究活動とサービス活動の重なり

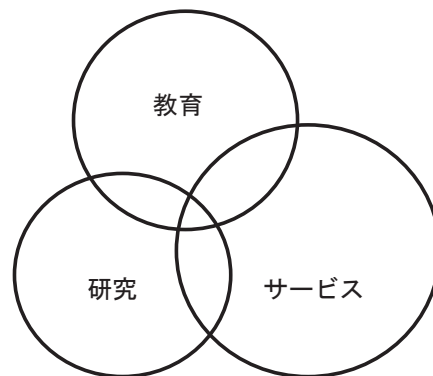


図1 APの概念

が大きかったりする。サービス活動がほとんどない人もいるかもしれない。また、年齢を重ねると職位によって仕事の内容が変化するものである。AP作成ワークショップは、このような各自の活動を振り返り整理し、さらにメンターとの個人ミーティングと自己省察によって各活動の重なり(integration)を明らかにするものである。これらのワークショップは既存のTP作成ワークショップと同時開催とした。

3. ワークショップの形式について

当初から実施してきた2日半のワークショップスケジュールを表1に示す。この形式は内省を重視しており、望ましい形式であり、3日目の昼食時には「良いメンターになるためには」等のワークを実施し、次回のメンターとなるための準備もできる。しかしながら3日間に渡るFD活動は業務多忙の昨今では敬遠されがちである。一方、表2に示すスケジュールは2日間のものである。ワークショップ基準は、7つの「基準」と4つの「努力基準」から構成されており、メンタリング3回以上合計2時間以上、作成時間は10時間以上とされている⁽²⁾。したがって表2の場合でもワークショップ基準は満たされている。しかし、作

成作業の時間は同じでも 1 日多いと内省の時間が長くなり、より深く整理できる。AP 作成ワークショップと TP 作成ワークショップを同時開催する利点は、メンターを共通化してメンターが効率よく参加者を担当しサポートできることである。また、TP 作成者が AP 作成者と交流したり、AP 披露を共有できることから AP 作成に関心を持ちやすくなることも重要である。

AP 作成と聞くと作成負荷が大きそうとか、研究業績が豊富でないため向いていないと考える教員も多い。最近、東京大学の栗田氏らは構造化アカデミック・ポートフォリオ (SAP) 作成を提案している。これまで、日本における AP 作成ワークショップは TP を作成した者を対象として実施してきたが、ワークショップを 2 回参加しないと AP を作成できないため、参加者の利便性は良くない。そこで初めから AP を作成できるようにフォーマットを整理して、インストラクションの順番に考えていけば AP が完成するというシステムである。米国では AP を作成する際、月曜から

金曜日までのワークショップを通して作成しているが、日本ではこのような日程を設定することはできない。そのため、TP 作成により教育理念に関する内省と一貫性を意識したドキュメント作成の要領を体験した後、別のワークショップとして AP を作成している。SAP は、TP 作成のプロセスを構造化し、AP の研究とサービス分野にも拡張して、AP を作成するものである。作成時の自由度が制限される懸念もあるが、効率的で有益な手法である。

4. ワークショップ実践にもとづく考察

AP 作成の意義は、作成時の教員としての全活動を内省により俯瞰・整理し、次の目標を立てることにあると考える。この意味で SAP を含む手法で簡易版 AP を作成することは有効であると考えられる。例えば、十数ページの AP を作成するのは負荷が大きく困難であるが、代わりに内省を重視しつつ AP の 3 要素を A4 用紙 1 枚程度にまとめる要領が考えられる。

また、通常の AP を作成する場合、研究業績が少ないから作成に向かないとか、サービス活動はほとんどないから作成に向かないと考えるのではなく、その時点での教員としての全活動を整理することによって、次の目標を考えるきっかけにして欲しい。年数が経つとエフォートは変化し、目標も変化するかもしれない。そのような把握のためにも AP 作成を活用すれば、豊かな教員活動につなげることができる。

5. おわりに

AP については教員の全活動を振り返って整理するという観点が重要で、簡易版の AP も含め気軽に作成すべきものであると考える。

参考文献

- (1) 独立行政法人 国立高等専門学校機構『モデルコアカリキュラム(試案)』2012年3月.
- (2) ティーチング・ポートフォリオ・ネット <http://www.teaching-portfolio-net.jp/> (2015年11月8日最終アクセス)

表 1 TP・AP 作成ワークショップのスケジュール 1

	初日	2 日目	3 日目
午前		個人ミーティング(2) 作成作業	個人ミーティング(3) 作成作業
午後	オリエンテーション 個人ミーティング(1) 作成作業	作成作業	より良いメンターになるために TPAP 活用法 作成作業 披露 修了式
夜間	作成作業	情報交換会 作成作業	

表 2 TP・AP 作成ワークショップのスケジュール 2

	初日	2 日目
午前	オリエンテーション 個人ミーティング(2)	個人ミーティング(3) 作成作業
午後	個人ミーティング(2) 作成作業	作成作業 披露 修了式
夜間	情報交換会 作成作業	